

令和 7 年度第 1 回恵庭創生懇談会議事録（要旨）

日時	令和 7 年 7 月 1 日（火）15：00～16：30
場所	恵庭市民会館 2 階 大会議室
出席者	小磯 修二（北海道文教大学 地域創造研究センター長）
	瀬恒 健太（恵庭工業クラブ サッポロビール北海道工場 副工場長）
	上森 直樹（恵庭商工会議所青年部 会長）
	蠣崎 こず恵（北海道ハイテクノロジー専門学校 医療学部 学部長）
	安藤 隆善（北洋銀行 恵庭中央支店長）
	岡部 利夫（北海道銀行 恵庭支店長）
	川浪 伸介（北海道新聞社 千歳支局長）
	宮崎 圭介（連合北海道恵庭地区連合 会長）
	川原田 聡（千歳公共職業安定所 所長）
	中村 敦史（中央コンピューターサービス株式会社 地域デザイン事業本部 未来創生部 部長）
	矢野 敦子（北海道石狩振興局 地域創生部長）
議事	（1）恵庭市総合戦略及び恵庭創生懇談会について
	（2）第 3 期恵庭市総合戦略 数値目標・K P I について
	（3）令和 6 年度デジタル田園都市国家構想交付金 交付実績及び効果検証について
	（4）令和 7 年度新しい地方経済・生活環境創生交付金 採択状況について
	（5）恵庭市の人口の現状について

流れ	内容
開会	●企画振興部次長 開会のあいさつ
委嘱状 交付	●市長 委嘱状交付
報告	●企画振興部次長 本日の欠席者および出席人数について報告
市長 あいさつ	●市長 開催にあたりご挨拶申し上げます。この懇談会は平成 27 年から開催しております。その間、3 回にわたって総合戦略を策定しており、その総合

	戦略に従って恵庭市の市政運営をしております。様々なまちの変容があり、この総合戦略の効果が表われておりまして、その一つとして、平成 27 年 6 月の人口が約 6 万 9,000 人でしたが、現在 7 万 270 人ということで、1,200 人以上増えています。これも総合戦略に従った政策を着実に推進してきた成果と思い、今後も皆さまのご意見をいただきながら作り上げた第 3 期総合戦略に従って進めようと考えております。 現在、総合計画の基本構想を審議会や議会などで議論しています。今後 10 年間のまちづくりの方向を定めようということで、これも小磯会長に総合計画審議会の会長になっていただいて進めております。 恵庭市は「読書のまちづくり」を掲げておりますが、先日、北海道文教大学地域創造センターの主催で、本を中心のテーマとしたフォーラムを開いていただきました。恵庭市にとって、読書、本は市民の手によって作られた文化の一つということを改めて感じました。「花のまちづくり」もそうですが、市民によって作られた文化をこれからも大切に、総合計画にもこれを明記しながら、住みよいまちづくりを進めてまいります。 忌憚のないお話をいただきますよう、心からお願いを申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。
確認	●企画振興部次長 配布資料の確認・懇談会の目的
自己紹介	恵庭創生懇談会委員あいさつ 委員自己紹介 (事務局自己紹介)
会長・ 副会長 選任	●企画振興部次長 事務局案：会長 小磯委員、副会長 矢野委員として委員に諮る。 委員は全員一致で事務局案を了承、承認。
会長 あいさつ	●会長 引き続き会長を務めさせていただくことになりました。皆様のご協力をいただきながら議事進行を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。 国は、地方創生 2.0 という、新しい地方創生に向けた取り組みを進めています。振り返ると 2015 年、安倍政権のもとで地方創生が始まり、10 年間、国の政策が進められました。その間、私も地域政策の研究者という形で、地方創生の政策について色々な形で意見を出させていただきました。 地方創生 2.0 の特徴として、これまでの政策の反省を明確にしていることがあります。特に経済的な視点では、地方で稼ぐ力を蓄えていく、足元の資源を活かしていくという部分です。今までの延長線上での議論という

会長 あいさつ	よりは、改めて地方の役割をしっかりと認識した上で、自分たちに何ができるか。ただ単に国の交付金を受け止めるだけの政策議論ではなく、前向きな議論を進めていくことが、国の政策の趣旨に沿うものかなと感じております。ご挨拶を含め、感想を述べさせていただきます。
副会長 あいさつ	●副会長 微力ながら、引き続き副会長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。
資料説明	●事務局 議題 「(1) 恵庭市総合戦略及び恵庭創生懇談会について (2) 第3期恵庭市総合戦略 数値目標・K P Iについて (3) 令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金 交付実績及び効果検証について (4) 令和7年度新しい地方経済・生活環境創生交付金 採択状況について (5) 恵庭市の人口の現状について」 説明 ●会長 地方創生を巡る大きな枠組み、それを受けて恵庭市の今後の取り組みと現状について説明がありました。ご質問、ご意見をいただきたいと思えます。
意見交換	●I 委員 恵庭市は人口に占める外国人が増えていると伺っています。市として、増加による実感や課題はありますか。ニセコ町周辺では外国人が増えることで様々な課題が生じており、恵庭市でも今後目立ってくるかもしれません。もし既に感じている課題があれば、デジタルでどのように対応していくか検討する点になると思います。 ●会長 倶知安町でも外国人が増えており、冬場には人口の4分の1近くを占めます。そのため、人口ビジョンを議論する際に、外国人だけに絞った分析が必要になっています。恵庭市でも外国人が増えており、その分析と政策対応は地方創生において重要だと考えています。具体的な数字は難しいかもしれませんが、恵庭市の考え方をお聞かせいただけますか。共生社会、多様性はとても大事なことだと思います。 ●市長 外国人はこの5年ほどで倍以上に増え、現在1,000人を超え、全体の約1.5%になっています。まだ比率は少ないですが急速に増加しており、地域

意見交換	との関わりについて考えています。約4年前から多文化共生施策として日本語教室や文化交流イベント、多文化共生セミナーなどを展開しています。昨年度は「はなふる」で各国のブースを出し文化交流を行うイベントを開催しました。また、雇用主である工場や農家、町内会の方々に集まっていたいただき、外国人が地域に馴染めるよう話し合う協議会も5年ほど前から始めています。 ただ、自治体は外国人の最初の窓口となるため、言葉の壁や悩みの把握といった課題があります。国としては、入国管理庁や厚労省など省庁が分かれており、生活全般や子育てなど、外国人ならではの悩みに対応する総合的な省庁がないのが現状です。市長会などを通じて国に一本化を求めています。今後さらに外国人が増えることを考えると、国として本格的に対応を考える必要があると感じています。恵庭に来てくださっている外国人は、アンケートでは住みやすいと答えてくださっていますが、住まいや余暇の問題など、きめ細やかな対応を続けていく必要があります。 ●会長 これから向き合っていかなければならない大きな問題だと認識しています。 ●H委員 外国人について、ハローワークでは雇用管理指導を行っており、恵庭・千歳地区でも年間一定数の指導をしています。急激な外国人増加により対応しきれない企業も出てくるため、適切な雇用管理を重視しています。文化の違いによる課題もありますので、共生は重要だと感じます。 また、若者の地元定着促進についてですが、今年3月卒業の高校生の地元就職率が12%増加と非常に喜ばしい状況です。地方に出なくても地元で就職できる環境ができてきたと感じています。この良い流れを逃さず、地元で就職し、経験や技能を後輩に継承していく流れに繋がりたいです。ハローワークでは、オンラインでの職業相談も進めており、いつでも相談を受けられるようにしています。北海道への移住を希望する方も多いため、そういう方々の窓口となれるよう考えています。 ●G委員 小学校ではデジタル教材を導入し、タブレットドリルを活用しています。夏休みの宿題もタブレットで配信できるようになり、子どもたちの取り組み状況も把握できるようになりました。子どもたちはクイズ感覚で取り組めるので、学習の定着に効果があると思います。 授業でのタブレット端末使用率を増やす目標ですが、子どもたちはかなり使いこなしています。教員は配信や電子黒板、デジタル教科書として使
------	---

意見交換	用し、子どもたちも体育の授業では互いに動画を撮り合ったり、理科の授業では実験結果をグラフ化したりと活用しています。小学校低学年にはタイピングは難しいですが、写真を撮って交流するアプリなどもあります。高学年になると使用頻度が高まるため、小学校全体でなく学年別に割合を見ると、より実態が見えると思います。毎年情報交換しながら、今後も活用は増えていくでしょう。 外国人との交流についてですが、子どもたちは普段あまり接する機会がないので、JICAの方など海外から来ている方が講演に来てくださると、非常に興味を持って話を聞いています。恵庭には海外から来た方のお子さんも学校にいますので、外国人だからと構えることは少ない地域だと感じています。外国から来ている学生さんに小学校で講演していただく機会があれば、子どもたちの興味が深まり、交流したいという気持ちに繋がるのではないのでしょうか。高校や専門学校、大学も多いので、そういった学生との交流も、恵庭の魅力として子どもたちに伝わると思います。
	●F委員 私は以前、外国人労働者の取材をしていました。特に日本語教育や地域との繋がり、支援が課題だと感じています。恵庭は「読書のまち」を標榜しており、図書館で様々な取り組みをされているので、外国人の方々と交えた取り組みも良いきっかけになると思います。言語翻訳の課題はありますが、大学や専門学校の留学生に協力してもらうことも考えられます。ラピダスも外国人労働者を受け入れるようですので、そういった連携も有効かもしれません。 花について、週末に大きなイベントもありましたし、オープンガーデンなど地域の方々が自主的に活動されています。そういった方々のネットワークを、インスタグラムやウェブサイトなどで発信していくのも良いと思います。また、旭川の東神楽町も花のまちとしてPRしているので、新千歳空港を拠点に、恵庭を含む周遊ルートを企画し、交流人口増加を図るのも良いかもしれません。恵庭は空港に近く、他の空港から入って恵庭を楽しみ、新千歳から帰る、またはその逆といった取り組みも考えられます。 ラピダスの影響で地価が高騰しており、千歳や恵庭、その周辺で住宅確保が課題となっています。不動産業者からは、ラピダスが長期的にどうなるか不透明なため、個人の投資家が手放した物件を大手企業が買い占める動きがあるという話も耳にします。このような取引がまちづくりに影響を及ぼす可能性も懸念されますので、注意が必要だと感じました。
	●E委員 恵庭市への新工場建設や工場買収など、設備投資の話が多く、新しく工

意見交換	業団地などが完成すれば、多くの引き合いがあるだろうと感じています。これは恵庭市の立地の強みだと思います。 一方で、金融機関としては、資材価格や人件費の高騰により、数年前と比較して事業計画が 1.5 倍から 2 倍近くになるケースが見られます。金利も上昇している中で、当初の想定どおりの事業計画にならないことがあります。我々も可能な限り融資などで対応していますが、この状況が続くと、地域金融機関として本来果たすべき役割を十分に果たせなくなる可能性に不安を感じています。 また、人材に関しては、提携先でミャンマー人の施工管理士を派遣するマッチングを行っています。実習生ではなく現場管理ができる方を派遣できるため、建設土木の事業者様から関心を持っていただいています。このように、我々も人口増加に少しでも貢献できるよう動いています。
	●D委員 恵庭市公式アプリ「えにわか」は素晴らしいと感じています。ただ、高齢者や外国人へのアプローチが難しいという問題があります。銀行のアプリでも同様の課題を抱えています。もしQRコードなどがあれば、銀行の支店や出張所に置いて、アプリ普及のお手伝いができると思います。 ある企業が上砂川の工場を閉鎖し、恵庭へ移転する可能性があるという話を聞きました。上砂川に住んでいる関係で拠点を変えるのが難しいという話も聞いているため、恵庭市として何か取り組みがあれば、我々も連携してお手伝いできることがあるかもしれません。
	●C委員 専門学校の立場から、18 歳人口の減少を気にしています。外国人に関するお話がたくさん出ましたが、本学にも多くの留学生がおり、恵み野地区には 120 名ほどの留学生会館を持つ学校もあります。もし恵庭市が外国人増やし、多文化共生を進める方針であれば、そういった学生向けのわかりやすい窓口があると非常に助かります。コロナ禍が終わり、本学の留学生数は 5 倍になりましたが、出口戦略の確保に苦慮している状況です。 就職促進事業を拝見しましたが、私どもの学校では産学連携事業として地域で学ぶ機会を教育に取り入れています。例えばドローンでの空撮・農薬散布、鹿の駆除など、恵庭市の予算削減に貢献できる協力的な価値を提供できることを研究しています。これにより、学生たちが恵庭で学ぶ価値も高まると思います。 以前、恵庭市が 18 歳からの学生向けに市の魅力や改善要望のアンケートを取られていたと思いますが、この取り組みは非常に面白いと感じています。学生に要望を聞くと、ネットワーク環境の問題が出ます。本学では

意見交換	ハイブリッド授業を行っていますが、700 人弱が一斉にネットワークを使用すると、オンライン授業ができない状況が発生しています。恵庭市全体のネットワーク回線と通信業者の問題と言われているため、デジタル化が進む中で、まち全体のネットワークを見直す必要があると考えています。学生からもぜひ伝えてほしいと頼まれたので、お伝えしました。
	●B 委員 商工会議所青年部は経済面で市に貢献することを考えています。市の融資制度や補助金については大変感謝しております。 インバウンドを取り入れ、恵庭市にお金を落としてもらいたいと考えているのですが、ラピダスなどの影響で恵庭市内のホテルが働く方々で埋まっており、イベントなどで呼びたくても、宿泊してもらうのが難しい状況です。先日も祭りのためにホテルを確保しようとしたところ、工事関係者の連泊が続いており、宿泊できませんでした。これは現在、頭を悩ませている点です。 一方で、先日ニュースにもなっていた恵み野にホテルができる件ですが、微力ながら帯広の商工会青年部のメンバーの会社に関わっており、貢献できたと感じています。 5 月の広報えにわで都市計画マスタープランを拝見しましたが、エスコンフィールドや「はなふる」を中心とした集客計画が載っていました。恵庭市は立地が素晴らしいので、例えばエスコン方面への交通の便を改善することも重要です。バス会社やタクシー会社の増加を望んでいます。また、国が力を入れているライドシェアも検討できますが、トラブルの懸念もあります。 恵庭市公式アプリ「えにわか」について、緊急情報がすぐに通知されると嬉しいです。このアプリだからこそ分かる情報価値が重要だと感じます。今後、イベントや交通情報なども、「えにわか」を見れば一発で分かる状況になれば、価値がさらに上がると思います。アプリ登録者数が目標 2,800 人に対し 8,000 人と素晴らしいですが、市外と市内の割合が気になります。もし市内の登録者が少ないのであれば、恵庭の携帯電話販売店などで、機種変更時などに「えにわか」のインストールを促す仕組みができれば、登録者数はもっと増えるのではないのでしょうか。
	●A 委員 産業経済の視点から二つお話させていただきます。若者や女性に選ばれる地域にするため、安定的な雇用創出の観点です。我々工場ではワーカーさんがいないと工場が回せないで、工場の持続性を考えると、できるだけ近くに住んでほしいと思っています。新卒の社員は札幌から通うことが

意見交換	多く、札幌に住みたがる傾向にあります。これでは雪や災害時に工場に集まらないという BCP の観点から非常にリスクがあります。会社としても、恵庭に近い場所に住んでもらうよう、制度設計を含めて考えていく必要があります。行政や地域の皆様と協力し、「恵庭に住むとこんな良いことがある」とアピールしていきたいです。工場はテレワークができないため、通勤時間が短い方が良いというライフスタイルの要望に応えていく啓発も必要だと考えています。 二つ目の視点は「稼げる地方」です。恵庭は千歳と札幌に挟まれており、通過する人が多い地域です。通過する方々にどうやって立ち寄ってもらうかを考える必要があると思います。私どもの工場内にあるジンギスカンレストランは最近非常に忙しく、ボールパークで野球を見る団体客の昼食場所として利用されています。これはボールパークができる前にはなかったことです。恵庭だけで解決しようとするのではなく、近隣自治体のニーズを恵庭がカバーするような視点で、連携し共存共栄を図っていくことが、経済産業の観点からも大切だと思います。 ●副会長 外国人住民の増加に伴い、今後様々な課題が出てくると思います。恵庭市は多文化共生事業を進められているとのことですが、私も倶知安での勤務経験から、ゴミの分別問題などの課題を聞いていました。町内会に外国人が加入せず、ゴミのルールが守られないという問題です。 他の自治体の会議に出席する中で面白い取り組みだと感じたのは、町内会が居住している外国人に、積極的に町内会への加入を促し、ゴミのルールを丁寧に教えてコミュニケーションを取っている例です。今後はこうしたコミュニティへの組み込みが重要になると思います。ただ、町内会の役員の方々は高齢者が多いので、健康面での負担をどのように軽減していくのかという点も課題だと感じています。 ●会長 C 委員から出たネットワーク通信環境の問題について、I 委員、いかがでしょうか。 ●I 委員 地域ごとにネットワークの設備容量が決まっており、恵庭市の容量が少ないのかもしれませんが、今後詳しくお話できると思います。 ●会長 デジタルは地方創生の大事な取り組みでもあるので、情報を整理し、恵庭市の対応を考える機会を作っていきたいと思います。さて、いくつか質問が出ましたので、市から回答をお願いします。
------	--

意見交換	●市長 皆様のお話、ありがとうございます。これらを恵庭市の施策に活かしていきたいと思います。 花づくりのネットワーク周遊について、私も同じ考えです。「はなふる」は道内の有名ガーデナーが庭を作っており、上川や千歳のガーデンを巡る際の起点として、空港から降りて「はなふる」を巡り、あちこちを回るような周遊を考えたいです。また、花と緑のセンターを設置しますので、そういったところまで手掛けていければと考えています。 アパートへの投資について、バブル期に投資家が一棟買いし、家賃収入を得ていましたが、バブル崩壊に遭ったことを思い出します。恵庭でそういった兆候が見られるのであれば、少し危険だと感じています。 上砂川の工場の件について、詳細は分かりませんが、集約化を考えたのではないかと感じています。 C委員の学生アンケートの話について、現在、総合計画を作成中で、昨年、学生からも意見を聞く機会を設けました。これからも、外から来た学生のまちに対する印象や「これがあれば」という意見を聞きながら、まちづくりに活かしていきたいと思います。 B委員からのバスやタクシー不足、ライドシェアについて、タクシー会社などの事業者と話し合いながら進めるとなると、なかなか進まないこともあります。これについては、検討を進めたいと考えています。 緊急情報について、明確な情報であれば、公式アプリ「えにわか」を含め、市が発信する様々なツールを使ってお知らせをしていきたいと考えています。 サッポロビール工場のレストランに多くのお客様が来ているのは大変喜ばしいことです。恵庭市の産業連関表を見ると、恵庭で作られたものが外に出ていくだけで、なかなか循環していないという側面もあります。外からの消費は大変ありがたいことで、エスコンフィールドの開業と恵庭市の経済的な分析を密に行い、どうすれば恵庭に経済効果を引き込めるか、工夫を考えていく必要があります。 ●会長 最後に触れられた、経済循環については、地方創生2.0における大きな戦略的テーマであり、国に頼るだけでなく地域で工夫をしていく必要があります。 昨年度、地域創造研究センターが協力して作成した産業連関表からは、恵庭の構造的な脆弱性が見えてきました。先ほどのお話にもあったように、宿泊機能が弱く、外からの消費を受け止めるのが難しい構造がありま
------	--

意見交換	す。ここをどう脱皮し、恵庭の循環的な経済力を高め、「稼ぐ力」を生み出していくのか。今年度は、地域創造研究センターが恵庭市からの受託研究として、恵庭での消費の実態を探っています。ここからヒントが得られると考えています。これは単なる観光だけでなく、もっと幅広い「Visiting Industry」つまり外から訪れる人々の消費が恵庭にどのような経済効果をもたらしているかを探るものです。 例えば、恵庭の「うおはん」は、これまで観光政策の対象ではありませんでしたが、外から稼ぐ拠点になっている可能性があります。お店の方に聞くと、購入者の半分以上が恵庭市外の方ということでした。「うおはん」の商品が新千歳空港への帰り道で買うお土産として良いと口コミで広がり、観光バスが立ち寄るようになっていきます。地域の中には、潜在的な力を持っているところがたくさんあります。A委員がお話しされたサッポロビール工場の魅力的なレストランも、この地域に新しい消費の流れをもたらす仕組みだと感じています。これをどう高めていくかです。 今日の会議で大きなヒントになったのは、恵庭商工会議所青年部の繋がりで恵み野に新しい宿泊施設ができるという話です。恵庭はなぜ宿泊機能が弱いのか。東京などから来る方々が恵庭に泊まらないのは残念なことです。恵庭にこれだけの魅力や流動があることを、官民一体となってネットワークで伝えていくことが重要だと思います。私も投資家へのヒアリングで、恵庭は宿泊への先行投資がなく、不安を感じると言われたことがあります。先行事例を積み重ねることで、投機目的ではない、安心して投資を引き付けられる好循環を生み出すことができます。消費だけでなく、投資の連鎖も「稼ぐ」戦略として重要だと感じました。 最後に、今日の議論で大きな特徴として挙げられるのが、外国人との共生が今後の都市政策のテーマになっていくということです。これは大変難しいテーマです。EU のイギリスの離脱などからもわかるように、外国人労働者とどう共生していくかは、非常に複雑で難しい問題です。しかし、日本の地方自治体は古くからこの問題に向き合ってきた経験があるのです。例えば、1990 年代にブラジルからの移民が増えた浜松市は、当時国に求めでも積極的に対応してくれなかったのが、困っている自治体と連合を作り、分かりやすい日本語での対応や国際交流などの独自の取り組みを進めてきました。地方創生という地方自治体発の取り組みとして、外国人との共生にどう取り組んでいくかは、真剣に向き合うべきです。国の政策を待つだけでなく、様々な形で取り組みを積み上げていく必要があります。北海道の場合、倶知安など一部地域で先行していますが、恵庭市においてもこれからの長い目で見ていくべきテーマであり、地方創生の大きなテーマ
------	---

	になってきていると改めて感じました。
閉会	●企画振興部次長 閉会のあいさつ